

## 西部ガス株式会社

幅広い利用目的がある保存休暇と社員のキャリア形成支援のための自己実現休暇

取組の  
ポイント

- 保存休暇の利用目的の拡大により、柔軟に休暇を取得することが可能。
- 自己実現休暇により社員のキャリア形成を支援
- 社内イントラネットを活用して休暇制度の情報発信や、休暇の計画表と実績管理が見える化することで計画的な休暇の取得を促進



## 取組の目的・概要

- 保存休暇は、失効する年休を年5日まで（合計50日まで）積み立て、リフレッシュ、病気治療、家族の介護・看護、短期育児休暇、自己啓発やボランティア等に利用可能である。
- 保存休暇を活用し、勤続10年目・20年目・30年目・40年目の節目に、永年勤続に連動する形でリフレッシュ休暇の取得を勧奨しており、勤続20年目・30年目には特別休暇を2日付与している。
- 自己実現休暇は、大学・大学院等の入学のために、最長4年間取得できる。
- 指定休日、年次有給休暇を合わせて5連休（土日を含めて9連休）とするフレッシュアップ休暇を取得するよう勧奨している。
- 休暇制度の内容や必要な手続きを社内のイントラネットで情報を整理し、発信するとともに職場で互いに休暇取得予定を共有する「見える化」を行っている。

## 企業概要

[ 設立 ] 1930年  
 [ 事業内容 ] 都市ガス製造、供給、販売等  
 [ 所在地 ] 福岡県福岡市  
 [ 従業員数 ] 1,354名（平成30年12月現在）

[ 年次有給休暇の取得率 ] 57%  
 [ 年間休日数 ] 121日  
 [ U R L ] <http://www.saibugas.co.jp/index.htm>

## 取組内容と特徴

### 保存休暇の概要

- ・保存休暇は失効する年休を年5日まで（合計50日まで）積み立てることができる。使用目的は、当初は本人私傷病、家族看護及び短期育児休業に限定されていたが、その後、組合から労働時間短縮の取り組みの一環として休暇制度の見直しの要望があり、保存休暇の使用目的にリフレッシュ、再就職準備、自己啓発、ボランティア活動が追加され、休暇制度に柔軟性を持たせ、取得しやすい制度に改善していった。
- ・保存休暇を活用し、勤続10年目・20年目・30年目・40年目に、10年目は1週間以内、20年目・30年目・40年目は2週間以内のリフレッシュ休暇の取得を勧奨している。現場の理解や会社全体の休暇を取得しやすい風土醸成のため、会社の創立記念日にリフレッシュ休暇の対象者を披露し、上長から表彰や旅行のクーポンを手渡すイベントを行っている。併せて、対象者の情報については、労働組合に情報提供され、労働組合の元旦の機関誌に対象者の一覧を載せることで取得促進を図っている。
- ・また、自己啓発を目的に資格取得、研修、講習会参加等で1週間を超える場合に休暇を取得できる。
- ・さらに、保存休暇は、ボランティア活動で1週間を超える場合にも休暇を取得できる。地元根拠企業として、環境面を中心に地域貢献活動にも積極的に参加しており、熊本地震のときは数名が休暇を取得し、ボランティアに参加した。

### 自己実現休暇の概要について

- ・自己実現休暇は、社員の多様なキャリア形成支援を目的に、平成17年度に導入された。
- ・勤続5年以上かつ満45歳未満の社員を対象に、国内外の大学・大学院及び各種学校への入学や語学習得のための留学等が対象となる。
- ・取得可能期間は1ヶ月単位での取得とし、最長4年（1回限り）まで可能である。
- ・原則として無給としているが、「国内外の大学・大学院への入学」で、休暇終了後5年以上継続して勤務する意思がある場合に限り、月額20万円を上限に経済的支援を行っている。

### 休暇取得状況を見える化

- ・保存休暇の利用目的の拡大や、フレッシュアップ休暇の9連休取得を徹底するなど、休暇制度の取得を推進していくためには、職場でお互いの取得予定を共有する「見える化」を行い、計画的に取り組んでいく必要がある。
- ・休暇制度の概要は、イントラネット上に人事お助けサイト「Mirudas」を構築し、休暇の種類ごとに内容や手続きを整理して情報を発信している。
- ・「見える化」の一環として、計画表と実績管理の運用を実施している。上司は部下の希望日が反映された計画表と休暇取得の実績を把握している。さらにこれを社内のイントラネット上に公開している。

北九州支社総務部 倉迫 諭史さん

制度利用者の声

妻の第2子（長女）出産の際に、3歳になる第1子（長男）の世話と妻の体調が回復するまでの期間に家事を行うため、保存休暇5日間と休日を利用して9連休の短期育児休業の特別休暇を取得しました。職場に迷惑をかけてしまう後ろめたさはありませんでしたが、育児休業の場合は、突然休みに入るものではないので、メンバーと仕事の共有を行い、突発的な仕事に対応できるようコミュニケーションを取ったことで、育児に専念できる貴重な期間をもつことができました。仕事とは違った苦労とやり甲斐があり、取得して本当に良かったと思っています。

また、第3子の誕生に合わせて育児休暇を取得したときは、長男・長女と一緒に出産に立ち会うことができました。家族全員で新しい命を迎えることができたことは、子供たちが赤ちゃんを可愛がるきっかけになりました。

子どもが増えた分、家庭と仕事とのバランスを取ることがより大変になったのは間違いありませんが、「メリハリをつけて働く」「早めに仕事の段取りをつける」という意識は育児休暇を取得したことによって強まりました。今後も、時間効率を意識しながら仕事をして、家族と一緒にいる時間を大切にしたいと思います。育児休暇の取得を申し出るまでには勇気がいると思いますが、切り出し方やタイミングを工夫して、職場の理解を得ることが必要だと思います。社員とその家族がよりよい方向に向かう一歩として、今後ますます育児休暇を取得する方が増えてほしいです。

